

次の流行曲を当てろ！～平成、令和のJ-POPの移り変わり～

音楽班:衛藤紅葉 喜久実生 関山瑞希

Abstract

The purpose of this research is to find the characteristics of music that is popular with the change of the times. Through three experiments, it was found that the next popular song has a short prelude length and a wide range. In addition, we considered that the popularity of songs has a strong influence on the way of thinking of people living in that era and the changes in the medium of listening to music. Therefore, in this study, it was concluded that the conditions of popular songs are correlated with the changes of the times.

要約

本研究の目的は時代の移り変わりと共に流行する音楽の特徴を見つけ出すことである。今回、私達が行った3つの実験によって、次に流行する曲は前奏の長さが短く、音域が広いものであるとわかった。また、曲の流行はその時代を生きる人々の考え方や音楽を聴く媒体の変化とも強く影響しているという考察をした。したがって本研究では、流行する曲の条件は時代の変化と相関関係があるということが結論づけられた。

1. はじめに

世の中のあらゆるものには流行があり、その世代ごとに人気のあるものは移り変わる。「あのときはどこに行っても流れていた曲が、いつのまにか全く聞かなくなった」という思いを誰もが一度は経験したことがあるのではないだろうか。このように、流行とは音楽にも存在するのである。私達はこのことに興味を持ち、現在流行している曲には、昔とは違う何か共通の特徴があるのではないかと考えた。この特徴を見つけることができれば、音楽について知識がなくても次に流行する曲の特徴を簡単に予想することが可能になるだろう。そこで、私達は人気の音楽について調査した。「ヒットする曲の歌詞分析」という先行研究を参考にした。この研究によると、これまでヒットした曲の多くがラブソングであり、半数以上の曲に「僕」、「君」、「夢」という単語が使用されているようだ。このことから、私達は歌詞以外にも様々な昔から現代にかけて音楽的要素の移り変わりがあると仮定し、それを調査シグラフにまとめることで、次に流行する曲の具体的な特徴を判明させようと考えた。調査する要素は、音楽に詳しくない人でも分かりやすく、数値として出しやすくするため、BPM、イントロの長さ、音域という3つの項目にした。

BPM…音楽用語ではテンポの単位(1分間の拍数)のこと。

イントロ…「イントロダクション」の略で音楽では「1つの演奏曲の前奏部」、「1つの演唱曲の前唱部」を指す。

音域…ヒトの声で出すことのできる音高の範囲が、人声の音域である。ただし、人声の音域だけは、しばしば声域と呼ばれる。今回は、声域を音域として表す。

2. 実験方法

2000年から2021年までのレコチョクランキングで各年の1位から3位までの流行曲を調べた。今回の研究でレコチョクサイトを使用した理由としては、CDの売上は1997年のピーク以降減少し続けており、その他方で日本国内の有料音楽配信はCD売上の減少と入れ替わる形で若者層を中心に広く普及されているからである。またその中でもレコチョクは普及率が高く、より正確な結果が導き出せるのではと考えた。そしてその調べた曲のBPM、イントロの長さ、音域の3つの要素に着目して実験を行った。

《実験1》

各年の1位から3位までのBPMの平均をとり、折れ線グラフにまとめ、相関関係がみられるかを調べた。

《実験2》

各年の1位から3位までのイントロの長さの平均をとり、折れ線グラフにまとめ、相関関係がみられるかを調べた。

《実験3》

各年の1位から3位までの音域の平均をとり、折れ線グラフにまとめ、相関関係がみられるかを調べた。

3. 結果

《実験1》BPMの値はどの年代も80~140に収まっていたが、相関関係は見られなかった。

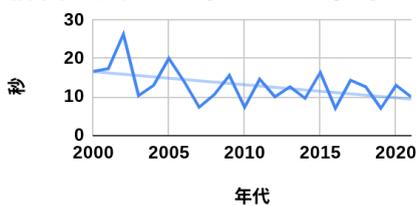
《実験2》

前奏の長さは減少傾向にあった。

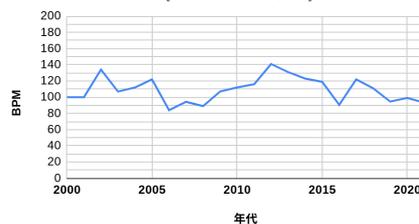
《実験3》

曲の最高音は年々高くなってきており、最低音はその反対に年々下がってきていた。つまり拡大傾向にあった

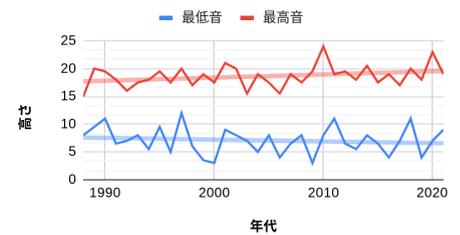
前奏の長さ (3位までの平均)



BPM (3位までの平均)



曲の最高低音



4. 考察

実験2の、前奏の長さが減少傾向にあったということに関しては、前奏がない(曲が始まった瞬間に歌いだしがある)曲が年々増加してきているからではないかと考察した。また、前奏のない曲が増加しているのはスマートフォンが普及し、CDではなくyoutubeや音楽アプリなどの手軽に曲をスキップできてしまうようなサブスクリプションができ、それらを使う人がきわめて多くなっているという時代背景がその原因だと考えられる。アーティストの目線になって考えてみると、売れる一流行りになる曲を作るためにはこのような時代背景に合わせた曲を作らなければ数多くある曲に埋もれてしまうので結果的に前奏の短い又はない曲が多く生み出されているということも考えられる。さらに、前奏のない曲を除いて平均を取れば、結果は変わって来るとも考えた。

実験3の音域の幅が拡大傾向にあったということに関しては、次々と新しい曲が生まれ、それがインターネットやメディアによって簡単に広められる現在のJPOPにおいて人々の耳に残りあまたある曲に埋もれてしまわないように広い音域を使って歌うという高い技術が求められているからだと考察した。また、楽譜の複雑さや歌うテクニックにもこのような傾向があるのではないかと考えた。

5. まとめ

前奏の長さの減少、使われている音域の拡大がといった、昔作られた曲と現代の曲では、やはり音楽的要素の違いが見られたが、テンポは常に様々な曲が存在しており、昔と現代とではさほど違いがわからず、全ての音楽的要素が変化しているわけではないということが判明した。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

「年間ランキング」 <https://recochoku.jp/special/100917/>